

交配方法

① カテーテルを挿入



深部注入なので、雄豚との接触は避けます。

尿道に進入しないように、上壁に沿って挿入します。
(ここまでは通常AIと同じです)

カテーテルがロックされていることを確認します。

② プローブの挿入



カテーテル内に、プローブ
（細くて柔らかい管）を挿入して
いきます。
この段階では図のように、途中ま
で（止まるまで）挿入します。

③ しばらく待つ

カテーテルを挿入してすぐは、子宮頸管が締まっていてうまくプローブが入りません。そのため、1～2分待つ必要があります。

④ プローブを最後まで挿入



きちんと頸管が緩んでいれば、力を入れなくても奥までプローブが挿入できます。
抵抗がある場合は、もう1～2分待ちます。

⑤ 精液の注入

ボトルをしっかりと握り、精液を一気に注入します。
注入したら、プローブ内の精液を使い切るために少量の空気を注入します。

※精液が漏れる場合は、カテーテルがロックされていないか、
中でプローブが折れている可能性があります



このような場合は一度引いてから再挿入するか、
挿入できない場合は通常AIで交配します。





←カテーテルのロックが甘い場合



プローブが中で折れている場合→

⑥ カテーテルの回収

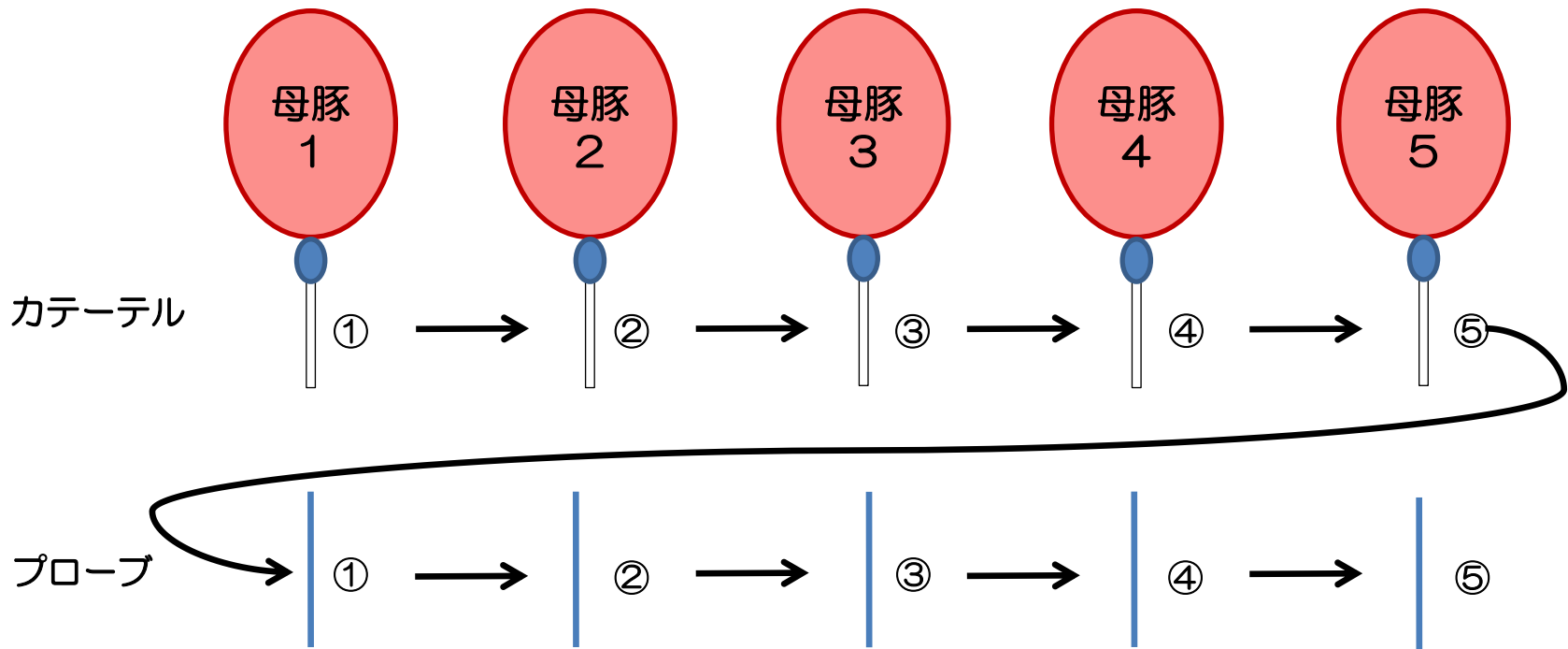


カテーテルとプローブのセットで引き抜きます。
精液を注入後すぐに回収して構いません。
精液の逆流防止になるため、精液チューブを付けた
まま引き抜きます。

母豚に出血等がないか、プローブの先端を
チェックします。



この商品は5本／袋となっていますので、先にカテーテルを順次5本挿入し、最初の母豚からプローブを挿入していくというようにすると、待ち時間（1～2分）の有効活用になり、かつ衛生的に交配できます。



深部AIのコツと失敗事例について

1、注入時の絶対条件

～注入時は母豚をリラックス状態にさせることが絶対的条件である～

(1) 交配前のコツ

- 雄の使用、接触や刺激を与えない。
- 雄に接触させたら30分後位に交配する。
雄との接触による刺激が子宮頸管を締め付けてしまい、プローブが子宮頸管内部を通らなくなる。

(2) カテーテル挿入後のコツ

カテーテル挿入後すぐに精液を注入しようとする、カテーテル挿入時の刺激で子宮頸管が締め付けられた状態になっている為、プローブが入りにくい。

(3) 精液注入時のコツ

- 注入時はカテーテルのロックの維持。
- 注入時は母豚の動きに対応できるようにすると良い。
母豚の動きに対応できないと、カテーテルのロックの維持が困難になる。
母豚が動く場合は、母豚がリラックス状態でないケースが多い。
- ボトルは十分な力で強く握る。
十分な力で強く握ると言っても、やみくもに強く握るのは良くない。
注入に必要なとされる力で強く握ると良い。また注入時は最初から強く握ると、母豚が違和感を感じてしまい嫌がる場合がよくあるので注意。
徐々に力を強くすると母豚も嫌がらずに注入することができる。
精液ボトルを使用の場合、ボトルを力強く握り続けるとカテーテルとボトルの結合部から精液が漏れる場合がある。また精液チューブを使用の場合、チューブを強く握りすぎるとチューブの破裂につながる。

- 母豚が極端に嫌がる場合は、時間をかけて再度挑戦する。
嫌がっている状態で無理に注入しようとしても上手くはいかない。一度注入を止め、母豚を再度リラックスさせること。また、母豚が嫌がると母豚が暴れたりして、カテーテルのロック状態をキープするのは困難になる。

以上の事に注意して注入をすると成功率が高くなります。母豚をいいリラックス状態にする為には、交配前に餌を少量与えると効果的です。母豚が餌を食べている状態での注入は、非常にやりやすいです。また、注入にかかる時間も短縮できます。

加えて、日常の精液の活力チェックや管理もしっかりと行う必要があります。